

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 29 日現在

機関番号：14302

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25284095

研究課題名(和文)日本語指導教員の成長過程に関する研究-成長を支えるシステムに着目して-

研究課題名(英文) A Study on Development of Japanese Language Teachers: with a focus on the system supporting development

研究代表者

濱田 麻里 (HAMADA, Mari)

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号：80228543

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：本グループはこれまで日本語指導等を必要とする外国人児童生徒等の教育に対応できる教員に求められる資質能力を明らかにし、その教育の内容や方法について提案してきた。その成果を踏まえて本研究では、日本語指導教員の育成について、行政等と連携しながら各地で教員養成・研修の実践を行い、これまでの提案の妥当性を検証した。また、成長ステージや職務内容の多様性に合わせた研修を行い、日本語指導教員の成長を支えるシステムのあり方について考察した。さらに、研究成果を全国に普及するため「多文化教員養成フォーラム」を開催し、この領域への関心を喚起し、関係者のネットワーキングを進めた。

研究成果の概要(英文)：The group has been investigating teachers' professional qualities which are requisite for teaching culturally and linguistically diverse students and how to develop them. This study tried to explore about the system which supports development of teachers who teach culturally and linguistically diverse students. A various types of teacher development courses were designed and provided based on our framework, and the results were examined. "Forum for multicultural teacher education" was organized in order to rouse interest of researchers and teacher educators and construct network among them.

研究分野：日本語教育

キーワード：教師の成長 日本語指導者 教員養成 教員研修 教員育成

1. 研究開始当初の背景

日本語指導の必要な外国人児童生徒の教育問題が論じられるようになって30年近くが経過していた。

本研究開始当時、公立学校での外国人児童生徒等の受入れを促進するため「特別の教育課程」として日本語指導を実施できるようにするための議論が開始され、また教員養成高度化の方策の一つとしての「専門免許状」制度が提案され、日本語指導も専門免許の一つとして位置づけられる可能性が議論されていた。しかしながら、特別の教育課程で指導計画の作成や実際の指導に当たる学校教員(以下、日本語指導教員とする)の養成・研修については、まだほとんど議論が行われていなかった。専門免許状についても、その中身の具体像は全く提示されないまま議論が続いていた。

そのような中、本研究代表者および分担者のグループは本研究に先立つ2つの科研費プロジェクトで外国人児童生徒の教育に対応できる教員の資質を明らかにし、また学部教員養成課程の学生と現職教員のそれぞれに対して必要な資質能力を育成するための具体的な方法について議論を開始していた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまでの成果を前提として、日本語指導を担当する学校教員(以下、日本語指導教員)の教師としての成長を支えるシステムのあり方を実践を通して検証するとともに、システムの普及を目指すことである。

3. 研究の方法

研究メンバーの所属大学での教師教育の実践を継続すると共に、地域と連携しながら現職教員の研修を行い、その成果を検証する。

また、これまでの成果をプロジェクト構成員以外の人々にも広く共有してもらうことを目的とした。そのため、「多文化教員養成フォーラム」を開催し、多文化教員の養成・研修に興味を持ってくれる人々とのネットワークを図る。

また、多文化教員についての成長の場として、教師の成長のステージや職務内容の多様性に合わせた研修、公的な養成・研修の機会に加え、教員同士の交流を通じた成長の場、を設定して、その成果を検証する。

4. 研究成果

本プロジェクト期間に以下の実践研究を行った。

○愛知教育大学4市合同研修(平成25～28年度)

愛知教育大学が刈谷市・豊田市・知立市・豊明市と連携して実施している現職教員を対象とする研修会で、本グループが開発し研修プログラムを実施した。

研修では変容学習理論の枠組みに基づき、準拠枠の変容があったかどうかを尋ねる調査を行った。いずれの研修についても一定の準拠枠の変容が確認され、研修の効果が見られた。

○多文化教員養成フォーラム

第1回 2015年12月12日 於学習院大学

第2回 2017年1月28日 於学習院大学

2回のフォーラムを通じて、この問題に関心のある実践者、研究者の間にネットワークを構築することができた。また、教師の成長をサポートするシステムの構築の重要性があらためて確認された。ことに学部養成段階の学生の成長の場を確保するためには自治体、学校現場との連携が重要であるが、集住地域、散在地域それぞれに課題に直面していることが明らかになった。

○成長ステージ等に合わせた多様な成長の場の設定

(1) 高校生対象セミナー(対象:大学進学を目指す高校生)

(2) 横浜市との共同研究(対象:現職教員)

(3) 滋賀日本語指導研究会(対象:現職教員、支援者)

3つの場での取り組みを通じて、それぞれの教員の成長ステージに合わせた取り組みの意義と課題を明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計16件)

浜田麻里(印刷中)「移動する子ども」との関わりから学生は何を学んだか—つなげる会の挑戦—『国際理解教育』

24. 査読有

橋本ゆかり(印刷中)「用法基盤モデルとピアラーニングの理論から年少者日本語教育の教材を考える」『ヨーロッパ日本語教育発表論文集』査読有

金田智子(2017)「マンガを用いて日本語教育の在り方を考える—『研修用マンガ教材 日本語教室をのぞいてみると』を使った研修」『言語教育実践イマ×ココ』p.20-21. 査読有

齋藤ひろみ(2017)「教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える」『奈良教育大学国際交流留学生センターシンポジウム 平成28年度教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える』

報告書』p.2-10. 査読無
齋藤ひろみ(2017)「各領域の教育・研究課題と国際教育センターに期待すること—外国人児童生徒の視点から」『東京学芸大学国際教育センター40周年記念誌』p.20-24. 査読無
齋藤ひろみ(2017)子どもの「ことばの表現力」を高める—外国人の子どもの作文分析の結果から—」『教育と医学』763号, p.74-83. 査読無
齋藤ひろみ・菅原雅枝(2017)「外国人児童生徒教育を担う「加配」一制度を巡る諸問題—」『都市問題』108, p.15-21. 査読無
浜田麻里・松本一子(2017)「外国人児童生徒に対する学習支援—集住地域と分散地域を比較しつつ—」『都市問題』108, p.10-14. 査読無
南浦涼介(2016)「実践を研究として書く」ということの意味—実践の当事者として,『異文化間教育』43, pp.65-79. 査読無
浜田麻里(2015)「学校の多言語多文化化に対応できる教員を育てる現職教員研修—体験活動を中心にした実践から—」『京都教育大学国文学会誌』43, pp.1-13. 査読無
川口直巳(2015)「教員養成大学における多文化共生意識の育成」『教育と医学』63-5, pp.30-39. 査読無
浜田麻里(2014)「多言語・多文化の子どもが輝けるように」『かざぐるま通信』30, p.5-9. 査読無
川口直巳(2014)「学生の「多文化共生」意識育成を目指して」『教育と教養』13, p.9-14. 査読無
橋本ゆかり(2014)「日本語教育の教員養成課程における『現場力』の育成」『横浜国立大学教育人間科学部紀要』16, p.99-114. 査読有
齋藤ひろみ(2013)「文化間移動をする子どもたちへの日本語教育—学びの連続性を保障する—」『内容重視の日本語教育』『月刊国語教育研究』490, p.16-21. 査読無
齋藤ひろみ(2013)「データに見る国内の年少者教育—日本語を学ぶ子どもたちと学校・教師・保護者—」『日本語学』23(3), p.32-42. 査読無

〔学会発表〕(計 21 件)

森篤嗣・齋藤ひろみ・田中祐輔「JSL 児童が在籍学級の学習に参加するための日本語—教室談話と教科書の語彙分析の結果から—」(2018年3月3日子どもの日本語教育研究会第3回大会)
浜田麻里・齋藤ひろみ・南浦涼介・市瀬智紀・河野俊之・橋本ゆかり・上田崇仁・川口直巳「教員養成学部学生の「日本語指導」に関する認識—外国人児童生徒等

教育にあたる教員養成の充実のための前提条件を探る—」(2017年10月14日日本教育大学協会研究集会 口頭発表)
橋本ゆかり「用法基盤モデルを活用した教育—漫画を中心とした活動—」(2017 Workshop Japanese Grammar World セミナー(招待講演))
齋藤ひろみ・菅原雅枝・三好大・李佳耀「日本生育外国人児童の小学校低学年におけるリテラシーの発達—日本語による意見文作文の「理由」に着目して—」(2017年6月17~18日異文化間教育学会第38回大会 ポスター発表)
河野俊之・橋本ゆかり・金田智子・川口直巳・齋藤ひろみ・南浦涼介・浜田麻里「現職教員の「日本語指導」に関する認識—「多文化教員研修」の検討に向けて—」(2017年6月17~18日異文化間教育学会第38回大会 共同発表)
浜田麻里「外国人児童生徒を支援できる多文化教員養成」(2017年6月16日(金)異文化間教育学会第38回大会 プレゼミナー)
浜田麻里・齋藤ひろみ・松本一子・菅原雅枝「「特別の教育課程」による日本語指導の実施状況とその課題—集住・分散地域の現状と担当者が抱える問題—」(2017年5月20~21日日本語教育学会春季大会 パネルセッション)
浜田麻里・市瀬智紀・齋藤ひろみ・南浦涼介・河野俊之・橋本ゆかり・上田崇仁・川口直巳「外国人児童生徒に対する指導に対応できる教員を養成する」(2016年10月14~15日日本教育大学協会研究集会 ポスター発表)
浜田麻里「大学教員養成課程の外国人児童生徒に対応できる教員を育成する科目受講生における言語教育観の変容」(2016年8月8~10日日本語教育国際研究大会(ICJLE)ポスター発表)
橋本ゆかり「年少者「多文化教員」に必要な能力とは何か—小中高等学校現職教員の海外派遣研修1年後の追跡調査から—」(2016年8月8~10日日本語教育国際研究大会(ICJLE)ポスター発表)
市瀬智紀・齋藤ひろみ「大学教員養成科目において外国人児童生徒に対応できる教員を育成するための授業実践の事例報告と省察」(2016年8月8~10日日本語教育国際研究大会(ICJLE)ポスター発表)
浜田麻里「現職教員研修の日本語教育研究者はいかに貢献できるか—学校教員と外国人保護者のコミュニケーション上の問題を巡って—」(2016年5月21~22日日本語教育学会春季大会 ポスターセッション)
浜田麻里「日本語要配慮生徒の進路指導を支える体制—進路指導主事に対する意識調査から—」(2016年3月26日 子

どもの日本語教育研究会第1回大会 ポスター発表)

橋本ゆかり「小中学校現職教員の視点から考える年少者「多文化教員」養成—海外派遣研修についてのヒアリング調査の結果から—」(2015年10月10~11日 日本語教育学会秋季大会 ポスターセッション)

浜田麻里・齋藤ひろみ・金田智子・橋本ゆかり・市瀬智紀「多文化教員支援サイトの開発」(2015年6月5~6日 異文化間教育学会第36回大会 ポスター発表)

浜田麻里・齋藤ひろみ・市瀬智紀・金田智子・河野俊之・橋本ゆかり・上田崇仁・川口直巳「多文化教員研修の講師はその実践を通じて何を学んだか 実践者の内省から」(2014年10月11~12日 日本語教育学会秋季大会 ポスターセッション)

SAITO Hiromi, HAMADA Mari, ICHINOSE Tomonori, KANEDA Tomoko "Designing a System for Supporting Teachers to Get Prepared for Multilingual and Multicultural Classroom." (2014年9月19~21日 Japan-U.S. Teacher Education Consortium (日米教員養成協議会) ポスターセッション)

河野俊之・浜田麻里・齋藤ひろみ・市瀬智紀・川口直巳・金田智子・橋本ゆかり「多文化教員に関する学部教員養成や現職研修のためのリソース」(2014年6月7~8日 異文化間教育学会 第35回大会 ポスター発表)

浜田麻里・齋藤ひろみ・川口直巳・橋本ゆかり・金田智子「特別の教育課程」としての日本語指導を担う多文化教員の養成プログラム—教員養成課程と現職教員研修における実践の展開に向けて」(2013年10月12~13日 日本語教育学会秋季大会 ポスターセッション)

齋藤ひろみ・浜田麻里「外国人児童生徒の日本語指導」の「特別の教育課程」化における諸課題 体制・内容・方法・人材育成」(2013年6月8~9日 異文化間教育学会第34回大会 ケース/パネル発表)

- ⑳ 橋本ゆかり・市瀬智紀・上田崇仁・金田智子・川口直巳・河野俊之・齋藤ひろみ・浜田麻里「文化教員養成プログラムの立案を目指して—教員養成系大学における大規模アンケート調査と教育実践から考える—」日本語教育学会春季大会 (2013年5月25~26日, 立教大学)

〔図書〕(計 5 件)

浜田麻里・市瀬智紀・上田崇仁・金田智子・川口直巳・河野俊之・齋藤ひろみ・橋本ゆかり・南浦涼介『日本語指導教員の成長過程に関する研究—成長を支えるシステムに着目して— 報告書』(科学研究費補助金成果報告書) 101 ページ

橋本ゆかり(2018)『用法基盤モデルから辿る第一・第二言語の習得段階—スロット付きスキーマ合成仮説が示す日本語の文法』風間書房

小島勝・白土悟・齋藤ひろみ(2016)『異文化間に学ぶ「ひと」の教育』明石書店

河野俊之・橋本ゆかり(2016)『教えよう日本語』凡人社
齋藤ひろみ・池上摩希子・近田由紀子(2015)『外国人児童生徒の学びを創る授業実践—「ことばと教科の力」を育む浜松の取り組み』くろしお出版 252 ページ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浜田 麻里 (HAMADA, Mari)
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号: 80228543

(2) 研究分担者

市瀬 智紀 (ICHINOSE, Tomonori)
宮城教育大学・学内共同利用施設等・教授
研究者番号: 30282148

上田 崇仁 (UEDA, Takahito)
愛知教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 90326421

金田智子 (KANEDA, Tomoko)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号: 50304457

川口 直巳 (KAWAGUCHI, Naomi)
愛知教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 60509149

河野 俊之 (KAWANO, Toshiyuki)
横浜国立大学・教育学部・教授
研究者番号: 60269769

齋藤 ひろみ (SAITO, Hiromi)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号: 50334462

橋本 ゆかり (HASHIMOTO, Yukari)
横浜国立大学・教育学部・教授
研究者番号: 40508058

南浦 涼介 (MINAMIURA, Ryosuke)
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号: 60598754